

# 目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253

箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくり  
ワークショップ

大阪船場繊維卸商団地協同組合について

大阪船場繊維卸商団地協同組合

事務局長 山口 裕



## 目次

1. 事業協同組合とは
2. 団地組合のこれまでの歩み
  - ①箕面船場団地創成について
  - ②北大阪急行延伸について
3. 箕面船場団地の現在
4. 箕面船場団地のこれから

# 1. 事業協同組合とは

□ 事業協同組合とは、「株式会社」「公益財団法人」「特定非営利活動法人(NPO法人)」などと同じ『法人』の一つで、中小企業等組合法を根拠法とした法人です。

□ 協同組合の特性

- ①人の組織            ~出資額の多少にかかわらず一人一票
- ②相互扶助の組織    ~中小企業が集まり、協同して共同事業を利用することで利益を増進する
- ③組合員の為の組織 ~組合自身の利益追求ではなく、組合員の事業を補完することが目的  
⇒ 「メンバーシップ制」の組織

□ 協同組合が行う事業

- ①物流事業 ②施設運営事業(①物流施設、②展示場・会議室、③店舗・事務所等、④駐車場)
  - ③まちづくりに関する事業 ④金融事業 ⑤福利厚生事業 ⑥教育事業 ⑦広報事業 ⑧その他事業
- 上記事業の利用者は本来組合員に限られている。

但し、組合員の利用に支障が無い場合に限り、分量を制限して組合員以外にも利用を認めている。【員外利用】  
また、組合保有の『体育館・グラウンド』や『集会場等』の施設について地域住民の無制限での利用を認めている。  
(組合が地域社会の一員として役割を果たすべきとの考えから)

## 2. 組合のこれまでの歩み

### 【① 箕面船場団地創成について】

- 昭和36年頃、船場の問屋街は狭い道路が自動車や人で混雑し、年々その激しさは増すばかりであった。そこで船場の店を商売だけの拠点とし、倉庫や荷捌場を分離、疎開することを考え昭和38年組合を立ち上げた。

移転先として、高槻、茨木、豊中、箕面 などの候補の中で「船場の問屋を誘致し一大商業振興を図る」どの公約を掲げ昭和39年4月に当選した若林市長の存在で、現在の『箕面』に移転が決まった。それから箕面市により公簿15万6千坪の山林・原野・池の土地買収が行われ、最終的には造成後22万坪となる今の『箕面船場団地』の造成が昭和44年頃に完了した。

その後、昭和45年に『新御堂筋』が開通、団地東側を倉庫・事務所などの『業務系地区』に、西側を組合員用住宅の『生活系地区』とし、組合共同施設や組合員の建物の建設が始まった。

団地は箕面市の「稲、芝、西宿、東坊島、西坊島」の5行政区にまたがっていたものを、昭和47年に地元、議会などの賛同も得て組合員一同の本拠地『船場』の地名を冠した『箕面船場東、西』を町名とした。因みに当時は、組合員221社が団地に進出移転。

【船場の問屋街】

S30年代後半



高層ビル問屋街

【其面移転地【造成前】】



【団地造成後】



【H25年頃の其面船場団地【南から】】



## 2. 組合のこれまでの歩み

### 【② 北大阪急行延伸について】

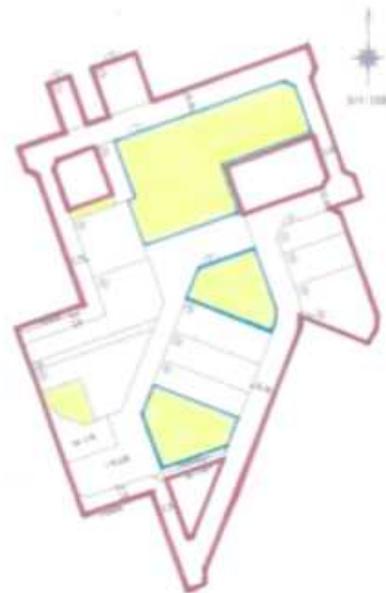
- 平成3年7月鉄道延伸の早期実現を推進するため、『北大阪急行線延伸推進会議』が設置される。  
(構成メンバー:箕面市・箕面商工会議所・大阪北部農業協同組合・大阪船場繊維卸商団地(協))  
国交省、大阪府、北大阪急行電鉄(株)など関係各所への陳情や実現のための研究活動を継続。
  
- H20年8月『北大阪急行の千里中央から箕面への延伸』を公約に掲げた前倉田市長が当選。  
H22年6月、倉田市長が来組され『鉄道延伸実現の為には、新駅の乗降客数の大幅増加が必要であり、そのための駅前周辺の再開発の検討』を提言された。  
これを受け、『箕面船場駅前土地区画整理事業』に着手。  
現在の大阪大学・図書館・ホール等の移転している駅前地区が出来上がった。

【箕面船場駅前土地区画整理事業】

従前の土地図[  :区画整理区域  :組合が買取り取得]



仮換地指定図[  :組合が箕面市に提供(売却)]



### 3. 箕面船場団地の現在

【箕面船場団地の業務地(船場東)について】

- 団地創成時から船場東は「店舗、倉庫、事務所」を配置する『業務地区』として、船場西は各組合員の従業員の住居などの『生活地区』として各企業に分譲。  
(御堂筋の東側だけで収納しきれなかった為、船場西の御堂筋沿いの1~2ブロックは業務地区となる)  
団地進出後、今日までの間に、組合員各社において船場西の『生活地区』(従業員の為の住居)については、売却や賃貸物件に変貌していき、現在の一般的な住宅地の街並みになっている。  
また、船場西、東の『業務地区』においても、50数年の間に「廃業」「団地から撤退」「資産処分」などで員外企業に所有権移転した物件や、マンションに切り替わった物件もあり。(現在の組合員数112社)
  
- 船場東の『業務地区』の大半は、南側の『駅前地区』を除き依然として『倉庫・事務所』などの物流施設として利用されている。  
船場東の『業務地区』の各ブロックには、中央に背割道路(幅員7m)の私道(組合所有)が配置されているが、これは地中に下水など配管や電線をインフラを収容するのと、公道に面しない裏の荷受場から荷物の出入れを行うように道路を整備したもの。(背割道路は物流用の道路)

【箕面船場団地 全体図】

□ : 船場東(業務地)の内、右側のエリア



各ブロック中央に背割道路(幅員7m)【組合所有】を配置。:



## 4. 箕面船場団地のこれから

- 大学、図書館、文化芸能劇場が出来て、数年後には駅も開業。

50数年前に、箕面市協力の元で『卸団地』として造成、組成された『箕面船場団地』（船場東50ha）の南中心部は、市街地（従前の卸団地とは異色のエリア）に変わりつつあります。

今後、駅前エリアに新しく住居（約1200戸）が計画されている様で、完成した暁には、今まで以上に人の往来が増える可能性あり。将来COM1号館跡地に『市民病院』が移転した暁には、駅前エリアだけでなく、その北側後背地にも人の往来が激しくなる恐れもあります。

また、駅前エリアの変貌に併せ、組合員企業でも更に『団地からの撤退』や『売却』により団地内で物流以外の用途で利用される物件が増える恐れもあります。

よって『鉄道延伸』や『駅前エリアの開発』が始まって以来、団地組合では組合員で構成された『長期計画委員会』を組織し、今後の『箕面船場団地』を如何していくか、新たな住民（大学・居住者等）との共存・共栄していく術を模索、検討しております。

## おわりに

- この『箕面船場団地』が今この様な姿で存在していることに、多少なりとも「団地組合」が寄与してきたことは、お分かり頂けたかと思えます。  
一般的には、団地組合の組合員は『事業者』で、皆様方は『住民』で、立ち位置は違います。  
また私共『事業者』は直接的に、『文化・芸術・国際交流を志向する組織』では無いため、皆様と必ずしもすべてにおいて利害が一致しないかも知れませんが、『箕面船場』という同じ『船』に乗り合わせた者同士、協力しあって行けたら良いかと思われます。

## コメント

- 繊維業とSDGsの関係性を明確にすることに関心があります。
- 組合の本来の目的も大学の本来の目的も、交流ではないはずだが、それでも、そのような団体・組織が共存していくにあたって、交流・協働していくことは、それぞれにとって（本来の目的を阻害することなく）「益」になる形があるはずだし、それを探っていくことが必要だと思う。
- 山口委員が文字通り事業者の立場で発言された「大学、文化ホールは仕事をする上でプラスにはならない。プラスになるよう共存共栄していかなければならない。」という言葉は私たち自治会に対しても向けられたものとして肝に銘じた次第です。自治会活動を語る上においても、まずは「自助」努力を行い、その次に「共助（互助）」がある、ということを強調しながら会員各位に呼びかけているところでもあり、自立した任意団体として引き続き地域社会の安心・安全を維持し、信頼に足る存在（自治会）でありたいものです。
- 「箕面船場」という同じ地域で活動するもの同士、チームを組んで出来ることは色々あると思うので、それぞれの立場で出来ることを出し合っていけば、皆さんの提唱する「インクルーシブ」なまちづくりを進めていけると思います。NPOも自立や資金調達、継続できる運営体制など、企業と同じ課題を抱えていることが多く、企業ならではの発想や事業展開など学ぶべき点は多いと思います。ワークショップの中でユニークな化学反応が生まれることを期待しています。
- 本来のテキスタイル団地は、衣服や生活スタイル等のファッションという文化を発信する機能を保有している。コロナ禍もあって業界は厳しい状況であるが、デジタルテクノロジーや脱炭素社会といったテーマと掛け合わせた新しい取り組みを、大阪大学と協働で始められないだろうか。例えば、「デザイン」は、文化とビジネスの中間領域ではないか。
- 組合単体としては動きづらい、ということだったので、船場でおこなわれる新事業では、JV（共同企業体）を組織してはどうか。阪大や市の外郭団体、自治会、まちづくり協議会、その他専門スキルをもった実働可能なNPO等も参加しながら、それぞれの強みを生かし、足りないところを補完しあえる関係を作りながら新しい展開を行うことが理想。

## コメント

- 街の一員として商業や都市の発展に大きな貢献をされていたことが分かりました。地域社会の一員として、団体と、その活動を知ってもらうには、様々なネットワークを持たれている他団体さんとの連携がやはり必要になってくるのだと思います。直接的ではなくても、地域社会の生活に密に関わっていらっしゃるのので、語劇祭だけでなく、その他の大学イベントも船場繊維卸商団地協同組合の場所をお借りできたと思います。大学も直接的に文化や芸術の発展、国際交流の促進に関わっているわけではありませんが、船場繊維卸商団地共同組合さんのおかげで、外国語学部の学びを箕面地域にお住まいの皆様にもお伝えできたと思えました。
- 団地組合の皆さんが期待されるような共存・共栄ができるよう、安心して暮らせるまちづくりと多くの人々が訪れる取り組みが船場でできれば良いと思います。しかしながら、劇場運営を考えるとこちらも同様なのですが、地域の皆さんに向けた取り組みと、他市からも注目される人呼び込めるような先進的な取り組みを、両立できるバランス感覚を皆さんと養っていければと思います。
- 情報共有の場づくり  
「まちづくり」という共通のテーマに関して、事業協同組合とまちづくり協議会が考えていることや課題に関して共有する研究会的な場を作り、場合によって一緒に取り組むことが素晴らしいと思う。
- 地域と企業の交流事業協同組合の方々に参加いただけるような地域のイベントの企画また、事業協同組合の組合員企業の主な業種であるファッション分野でのイベントの共催をし、地域の文化や芸術、国際交流の充実を図る。
  - ◎半世紀経過した団地のランドデザインの検討に住民サイドとし参画。  
組合員の個々の企業とCSRを切り口とした活動の拡大を図りたい。
  - ◎駅近のロケーションから地権者に対する不動産開発の働き掛けが活発であり、高度土地利用地区以外の住宅転用は今後とも見られると思う。(船場東だけで投票所を独立させたことは、箕面市も今後の住民激増を認識している)新規住民との橋渡しを心掛けていきたい。
  - ◎箕面萱野駅地区と合わせた特色のある商業圏の構築。
- 団地組合自身が直接的な文化・芸術・国際交流の担い手ではありませんが、協働したりコラボレーションすることにより繊維業界を有する船場地区ならではの新しいと取組ができるのではないかと考えられます。  
ex.) 船場ファッションショー…モデルは地域多世代の住民、デザインは市民から公募、多国籍のファッション(外国語学部の学生参加)、環境に配慮した素材を使うなどSDGsの取り組み、多国籍の食べ物・多国籍の音楽ライブ等々。

# 目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253

# インクルーシブな社会を目指す

プリティ 梨佐クリスティーン

2022.1.17

# 無意識バイアス（アンコンシャスバイアス）

= （自分自身は気づいていない）根拠のない 思い込み・偏見

例：“社長だから、きっと年配の男性”

“モデルだから、きっと背が高く、スタイルが良い”

“見た目が「外国人」だから、きっと英語が話せる”

“〇〇国から来ている留学生だから、きっと貧しい”

→こういった根拠のない思い込みが、当事者にとっては生きづらい・・・

- 様々な要素を持った人々が集まる社会であるからこそ、それぞれの多様性を認め、一人ひとりが「自分らしく」生きられる社会

=「インクルーシブ」な社会を目指したい

# 外国ルーツの人々のかかえる事情

- 今日本に住む外国人の数は約 2 8 0 万人\*
- 「外国人」でも、海外から来日したばかりの人もいれば、日本で生まれ育った人もいる
- 外国籍だけでなく、日本国籍はあるが初めて日本に住む人、二重国籍の人、  
難民 2 世などで無国籍状態の人、など様々・・・

# 難民認定の難しさ

- 例：昨年5月のサッカーワールドカップ・アジア2次予選で軍への抗議を行ったミャンマー出身のピエ・リアン・アウン選手が難民申請  
→8月に難民認定を受け、横浜のクラブチームでプレイ
- もっとも、日本で難民申請が認められるのはごく僅か  
→令和元年は、約10,000件の申請に対し、認められたのはたったの44人\*  
= 0.5%以下（国際的にみると著しく低い）
- 日本は、1981年に難民の地位に関する条約（「難民条約」）に加盟しており、難民を保護する義務が生じている一方で、ドイツやイタリアのように、憲法に難民の保護に関する規定はない

# 様々な困難

- 外国にルーツを持つ人の直面する困難
  - 日本語教育、貧困、いじめ、差別、ステレオタイプ、非行、DV
  - これらの複合的な問題も
- 弁護士として感じる、外国人の法律相談におけるポイント：  
在留資格、準拠法、言葉の問題、通訳を介したコミュニケーション、制度や常識の違い等  
↓
  - 日本の司法制度が使えるのか分からない場合
  - 費用が支払えるか分からない場合（翻訳費用も高くつく可能性）

# 「ダイバーシティ」「インクルーシブ」…

- 近年、「ダイバーシティ」や「インクルーシブ」といった言葉を聞くことが多いが、その意味や違いは？

- 「ダイバーシティ」

- 主にビジネスの場で、「多様性」との意味で用いられる

- = 国籍、人種、性別、身体的特徴、宗教、価値観等の異なる、多様な人材が集まっている状態

- 「インクルージョン」

- = 多様な人材が集まり、相互に個性を認め合い・活かし、（会社や社会において）機能している状態

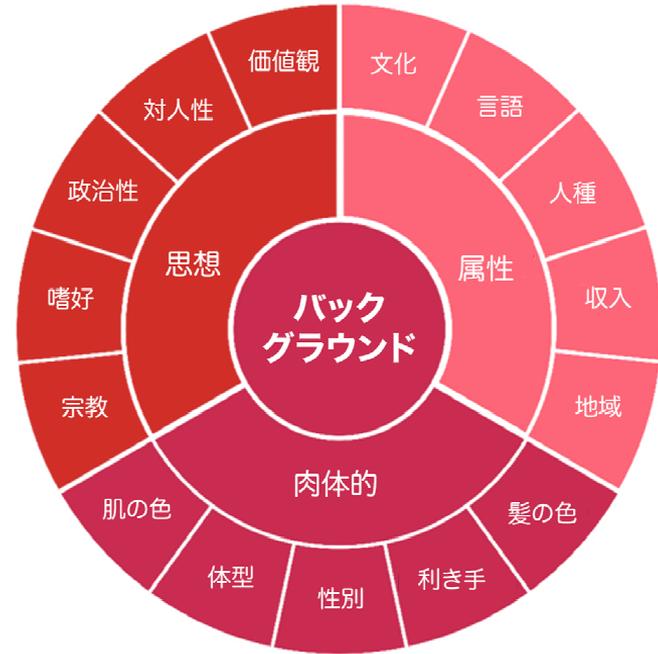
これからは、多様な人材が集まる状態（ダイバーシティ）から、

その人の個性を認め合い、活かせる程に機能している状態（インクルージョン）に

# ダイバーシティの要素

例えば：

- 性別
- 年齢
- 人種
- 言語
- 体型
- 肌の色
- 宗教
- 食習慣
- 障がい
- 収入
- 文化
- 地域
- 利き手
- ライフスタイル



# インクルーシブな社会へ

- Inclusive/Inclusion = 「包括」「包摂」「包含」「排除しない」
- 外国人を日本に呼ぶことができても、日本がインクルーシブな社会でなければ、外国人は日本での生活に不満を覚え、結局定住したいと考えない
- インクルージョンが浸透しているという状態は、一人一人が「社会から受け入れられている」と安心感をもって、個性や創造性を発揮できること
- 外国人を観光客として受け入れる「インバウンド」の発想から、外国人が社会の中で必要不可欠な役割を担う「インクルーシブ」な社会を目指す意識にシフト!

(参考: TUNAG 『インクルージョンとは?ダイバーシティとの違い、導入事例と共に解説します』 <https://tunag.jp/ja/contents/hr-column/4934/>、  
NIKKEI STYLE 『外国人は日本人の本音聞きたい いつまで「お客様」?』 <https://style.nikkei.com/article/DGXMZO3o8185ooS8A52oC1000000>)

# では、どうすべきか

- 具体的には？

→外国人や外国の文化、その多様性を（理解するだけでなく）内部に取り込む

例：宗教的な戒律を守りながら、食事を楽しめる状態

日本語ネイティブでなくても、自分のやりたい仕事を探せる状態

差別や偏見を受けずに生活できる状態

→一人一人の意識の問題なので、効果が表れるのに時間がかかる。

コツコツと積み重ね、時間がかかると心得ておく必要がある

# 導入例

- 例：階段や床の段差にある場所に、エレベーターやスロープを導入
- その他にも、「手すり」「点字ブロック」「ノンステップバス」「多目的トイレ」等  
→「バリアフリー」を考慮したものがたくさんある  
= 既に、「体の不自由な人」にとっても暮らしやすい社会を作る取り組みは、各地で浸透
- バリアフリーの先→インクルージョン  
広く、社会的なマイノリティも受け入れていくアプローチ
- バリアフリーで導入されたものは、物理的な対策で、インクルージョンは主に精神面・文化面  
物理的な対策だけでは限界があるか・・・

# インクルーシブデザイン

- 高齢者、障がい者、外国人など、従来、デザインプロセスから除外されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込むデザイン手法\* 「インクルーシブデザイン」が注目されている
- 例：施設の設計、商品開発、サービス、Webデザイン等



異なる肌の色に対応したバンドエイド



性別や体型の既成概念にとられない下着



ジェンダーニュートラルトイレ

# SDGsにもヒントが

- 目標 4  
「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
- 「包摂的」=「インクルーシブ」



# おわりに

- 個人の多様性を認め合い、社会で活躍する人として受け入れていく世の中にしていかなければならない。
- 社会全体の意識や価値観をすぐに変えることは難しいので、物理的な対策からでも取り組んでいくべき。

例えば・・・

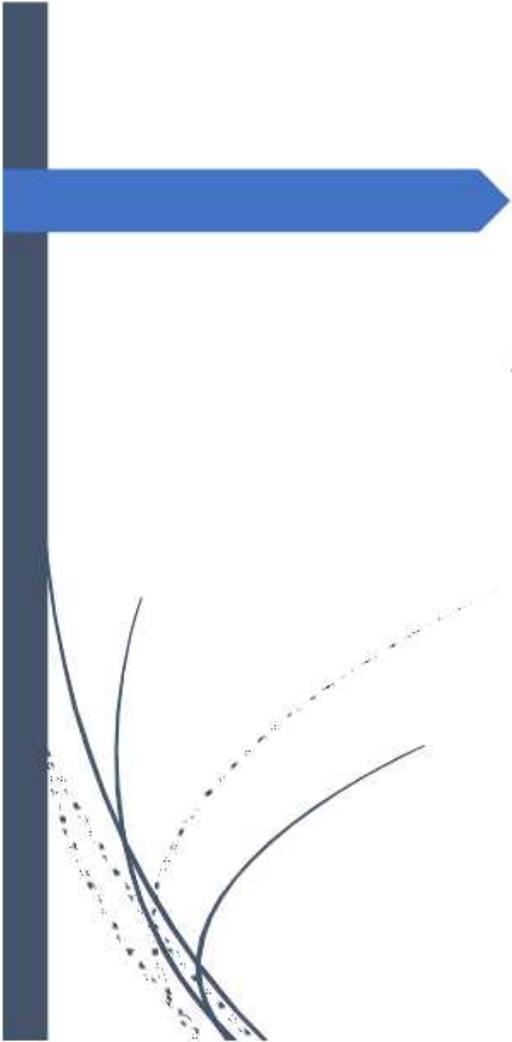
- 街中の看板の文字をより大きくし、複数言語を併記する（英語だけで満足しない）
- ホームページを複数言語に対応させる
- ジェンダーニュートラルトイレや、その他インクルーシブデザインを取り入れる
- レストランで、食事の選択肢を（ハラール、コーシャなど）分かりやすく記載する

## コメント

- 言葉の問題としてDiversity、ダイバーシティ、多様性等、どれを用いるのがよいか、できるだけ多くの人々の心に届くためには。
- 箕面で実績のある「人権」との関わりを考えること。
- 箕面は歴史のある街であり、それが伝統を生んでおり、それは価値のあることだが、決して「古い体質」にとどまらないように注意が必要。
- MAFGAや外国語学部が率先して、違うこと、いろいろあることが「あたりまえ」という社会を目指していくことができればと思う。
- プリティさんも言われていた様に、ソフトの部分(精神面、意識)は中々難しいところが有るので、物理的なもの(表示、デザインなど)から取り組みは始めることで、広く周りに対して啓蒙活動をすることが出来るのではないかと感じた。
- 人間は命あるものとして平等であり、公平に扱われるべき存在であることは誰も認めるどころです。一方、人間は肉体的、精神的、能力的、その他諸々の面において異なっており、区別されてしかるべき存在かと思われまます。したがってそのような前提に立って、住み易い社会の構築を目指すべきではないかと思えます。いたずらにジェンダーニュートラルトイレ等を増設したところで、そのことが暮らしやすい社会の到来に結びつくのか、はなはだ疑問です。
- マイノリティをめぐる問題の解決には「人権(=反差別)」の視点が欠かせません。多様性を認め合う、というレベルでは、どう折り合いをつけるのが難しい。マイノリティの人たちが抑圧されることのないよう、マジョリティの方こそ、抗い続けなければならないと私は考えています。「構造的な差別は、“動く歩道”のようなものだ」という例えが最も的を射ていると思いますが、差別に関する人の在り方に、「中立的立場」は存在しません。「動く歩道」そのもの、つまり社会の流れが変わらない限り、「私も差別の加害者であるかもしれない」という、居心地の悪い気持ちを抱え続けながら、当たり前のように存在する構造を変えようと、ともに抗い続けるか。あるいは何も考えず、または見てみぬふりをする消極的な差別主義者にとどまるか。自らの持つ特権に無自覚であり、善良である自分は変わる必要などないと確信をもって暮らすことのできる人が多い社会の中で、皆で取り組むべきテーマです。
- 具体的にはまず船場エリアの新しくできるまちが、子ども、高齢者、外国人など多様な人々にとって生活しやすく、訪れやすく、移動しやすいまちになるような活動を箕面市と連携して具体的に行いたい。また、インクルーシブな社会をつくるためには子どもがインクルーシブデザインを学ぶ機会が必要である。そのためのワークショップを「こどもデザインラボ」として船場まちづくり協議会で行っていきたい。
- ダイバーシティからインクルーシブへというプリティ委員の考え方に新しい気付きをいただいた。
- ダイバーシティを当たり前ととらえインクルーシブな社会を目指すために、子どもたちへの教育は重要。
- その際様々な学び・アプローチが考えられるが、より自然に一人一人の意識に働きかけていけるものの一つとして、芸術の持つ役割は大きい。「教えていく」こととは別に「体験から五感で体感していく」アプローチとなり得る。
- 基本となる物理的な対策やSDGsなどとも連動してインクルージョンを浸透させ、社会の中で一人一人が個性を尊重され、創造的な活動が出来ることを促進出来るきっかけづくりや取り組みが出来たらと考える。

# 目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253



# 音楽の力と箕面船場における 活性化の可能性

吉岡 邑玲

2022年1月17日

## I 箕面との関わりから見た自己紹介

大阪市に生まれ育ち 18 歳の時に宝塚市に転居、結婚を機に箕面市へ。

箕面市の住みやすさ居心地の良さに離れられなくなり、以後市内半径 2 km 圏内で 3 度目の自宅を構える。

大学（阪大文学部美学科→超マイナー・マイノリティ学科）を卒業後就職するが、結婚後（つまり箕面市に居住以後）日本語・アナウンス学校に通い FM802 アナウンサーのオーディションに合格し、以後その道を歩む。

一方 4 歳から趣味として始めたヴァイオリンが縁で通学していた府立高校のオーケストラ部にスカウトされ入部、コンサートマスターを務める。

箕面市へ転居 1 年後に箕面市民オーケストラへ入団。コンサートマスターを依頼され、弦楽器の指導も行うことに。出産育児のため退団したところ、ヴァイオリンを教えて欲しい、合奏をしてみたいとの依頼があり、2000 年に数名で合奏も始める→アンサンブル・アルモニ結成へ。

その後 演奏・指導にも興味を持ち、AN と両輪で活動していくことに。

社会人になり箕面市にやって来てからのまさかの展開～AN・音楽家としての活動が軸となる。

箕面市民となってから新たな人生のフェイズが始まった！

## II 箕面市内でのこれまでの活動

Iのような経緯から、

箕面市の式典・「箕面祭り」の司会、ライオンズクラブ・ロータリークラブでの司会・演奏、敬老会での演奏、メイプルホール・グリーンホールでのコンサート、各ロビーコンサート、こども文化教室、えほんコンサート等々AN、Vnを中心とし、地域に根差した活動

また珍しい（変わった？）経歴ゆえに？ 箕面祭り検討委員会委員、音楽協会副会長、メイプル文化財団評議員、同企画運営委員、箕面新文化ホール審議員等文化芸術に携わる各組織の企画・運営にお声をかけていただき、夫々の新しい在りかたをともに考え作っていくことに魅力を感じる。

そこで多くの方と知り合い、多様な組織・職業の方と考えや思いを共有してきた。

## III 活動の課題

(i) ロビーコンサート、こども文化体験フェア、箕面祭り等継続して行われているイベントも多くある。

☆こども文化体験フェア→箕面の文化芸術関係団体が一堂に会して開催。無料で1日に数コース体験できる。

箕面市内の各小・中学校にプリント配布

- ☆ロビーコンサート→気軽に立ち寄れること。距離の近い空間。飲み物・食べ物付き。市内出演団体の多様性。
- ☆箕面まつり→パレード・広場・ホール等会場及び内容の多彩さ、市民の活躍・発表の場。フライヤー全戸配布・開催前ののぼりや装飾の設置。

(ii) 現状の課題

- ・広報活動
- ・実際に足を運んでいただけるような工夫
- ・継続していけるための工夫
- ・スタッフの確保・環境整備→徐々に疲弊。ボランティアでは限界も。より多くのスタッフの継続的従事の必要性。

ex) ロビーコンサート→チラシ・プログラム作り、当日本番前の数時間のリハーサル、看板作り、椅子並べ、受付準備、お菓子・飲み物準備、出演者との事前のやり取り、事前の会議

- ・頑張っているスタッフには些少でもお礼を出したい
- ・運営継続の為の基金・資金

(iii) 音楽のサポーター

中世～ルネッサンス	：	教会
バロック・古典派	：	王侯貴族
ロマン派～近代	：	ブルジョワジー



#### IV 新たな創出

ex) 箕面船場ファッションショー

モデルは地域多世代の住民、デザインは市民からの公募、多国籍のファッション（外国語学部の学生参加）、環境に配慮した素材を使うなど SDG's の取り組み、多国籍の食べ物・多国籍の音楽パフォーマンス等々

ex) まちかどライブラリーフェア

市民や学生、大学教職員の皆様が利用する箕面船場図書館。そこから新たな出会い・ふれあい・交流が生まれ、本・絵本を源にした文化の交流・発信

\*例えば「アジアの文化の本紹介」から広げるイベント（地域・国はその都度フォーカスを選択していく）  
本紹介、絵本の読みきかせ、えほんコンサート

歴史・生活・食文化 → 刺繍・ペインティング・工芸等簡単モノづくり体験、簡単調理の食体験

ex) まちマップ（手書き）

手書きの船場マップを作り、温もりある地域ガイド～地元の文化・商店の活性化  
歩いて五感を使って散策を楽しみながら箕面を再発見

ミニツアー

## V 音楽の持つ可能性 自らの体験から感じ学んだことを中心に考察

(i) 近年の日本・世界の危機的状況におけるコンサート

1995 1.17 阪神淡路大震災

阪神地域が壊滅的な被害。実家も友人・知人宅も。

2月半ばに大阪市内にある「いずみホール」で弦楽合奏団の演奏会出演  
被災地にてチケットを配り被災した方々も来場して下さった

- ・こんな時間が欲しかった。 ・久しぶりに笑顔になりました。
- ・涙が出ました。 ・明日から頑張れそうです。 ・ありがとう！

2020 3月以降 演奏が全て延期・中止

目標を失う日々 音楽は「不要不急」力になれないのでは

2020 11月 3名で小規模のコンサート開催 → チケットがすぐに完売 予想外の反応

- ・こんな時間を待っていました。 ・音楽で心癒され明日からのパワーをいただきました。
- ・心のこもった思いの届く演奏に涙が出ました。
- ・長く続くコロナ禍のため閉塞感を感じていましたが、思わずマスクの下で口ずさむこともあり久しぶりに元気をいただきました。
- ・やはり生演奏・ライブに勝るものはありません。

2021 11.16 箕面文化芸能劇場にてこけら落としコンサート

「アンサンブル・アルモニ ～癒しのメロディ～」

当初小ホールでの開催予定だったが1200名以上の市民の皆様の応募があり、急遽大ホールでの開催にお馴染みの癒しのクラシック～映画音楽など

沢山の市民の皆様が楽しみにしてくださっていたことを知り、感じ、感無量。

(ii) 病院でのコンサート（弦楽合奏や2，3人での演奏など）

・ロビーにて

・心の病・重症病棟集会室にて

患者の皆さんが普段の治療や介護では見られない柔らかな表情、手を動かす、言葉を返される。感激される。

「職員も業務に追われ余裕がない日々だったが、この日は一緒に心が解放された。」との言葉。

音楽は人が何か痛みを受けた時、医療のように直接的治療をしたり、空腹をたちまち埋めるもの

ではないかもしれないが、その痛みを受けた人の心を癒し、元気に笑顔にすることができる。

同じ空間・時間を共有することの意義深さ。

(iii) ブラダン・コチさんとのコンサート

ブラダン・コチさん

1963年チェコスロバキア生まれ。プラハ音楽院およびプラハ音楽アカデミー卒業後、プラハ室内オペラの首席チェリストを務める。1988年旧チェコスロバキアの独裁政権下で、軍事政権にくみせず徴兵を拒否したため収監され“良心の囚人”となる。

ドイツ・アムネスティなど多くの人々の支援活動を受け、89年のビロード革命による政権交代によって解放される。その後、ヴィルトージ・ディ・プラハの首席チェリスト、チェコ九重奏団のメンバーなどを経て、プラハ音楽院教授、メキシコ・チアパス州立芸術科学大学教授に就任。後進の指導に情熱を注いでいる。

一方、ソリストとしても世界中で演奏活動を繰り広げ、コンサート・ホールに行くことが出来ない人々のために、病院やホスピス、老人ホーム、子どもたちの施設などへ音楽を届けている。また、広島や長崎で開かれた「平和コンサート」や、東日本大震災後の被災地支援コンサートなど日本でも音楽活動を展開。

2016 オーケストラ奏者として共演 ヴラダン・コチ&アンサンブルサビーナコンサートにて

音楽家にとっても「ヒューマンライツ」は自己のアイデンティティを持って生きるための根幹  
一人一人の存在が尊重され、一人一人の精神の自由が認められること  
音楽を通して私（たち）がけしてひとりぼっちではないと知り、感じる事が出来る。魂の自由。  
生きる勇気。



音楽家：社会的存在

(iv) アフガニスタンの音楽家たち

女性だけのオーケストラ「ゾーラ」 主に13歳～20歳までのカブールの孤児院出身の女性で構成。

2014年の結成以来、ゾーラはタリバン政権崩壊以後自由を国際社会に向けて象徴する存在。一方で、国内の一部からの敵意や脅威にも晒され続けてきた。

鮮やかな赤のヒジャブをまとい、ギターに似た「ラバブ」などの民俗楽器でアフガン伝統音楽と西洋のクラシック音楽とを融合した曲を奏でるオーケストラは、シドニーオペラハウスやスイス・ダボスの世界経済フォーラムなどで聴衆を魅了。

2021.8.15 「とても恐かった。まるで自分の人生のすべての記憶が灰になってしまったように思えた」と、国外に逃れたクパルワクさん。タリバンがあつという間にアフガニスタンを制圧し、数万人の人々が国を脱出。

10.5 アフガニスタン国立音楽大学（ANIM）とゾーラ・オーケストラのメンバー、音楽教師101人が、ついに脱出することに成功。飛行機でカタールのドーハに到着。

「100人の命が救われた。100人の夢が救われた」

音楽は人類共通言語 国境を越え、性別・年齢・社会的立場を超えていける

音楽は社会とともにある 音楽がある日常とは実は世界が世の中が平和であることの証し

(v) えほんコンサートの開催

時代を担う子どもたちに、生の音楽をつけた絵本の朗読を届ける。

0歳から100歳までのすべての皆様・3,4世代の皆様が一緒に楽しむ時間・空間。

一人一人の柔らかな心に情緒、イメージネーション・想像力の喚起。

多世代が集まることで生まれる一体感。

お子さんの想像を超える感受性・集中力に驚き、音楽や朗読・映像のコラボレーションがお子さんの心に伝わって届くのだということを体験し、感激。

普段なかなかお子さん連れてコンサートに行けない子育て中の親御さんも「気兼ねなく一緒に楽しめる」との嬉しい感想。

音楽は子どもたちの情緒や想像力を育む。

音楽は世代をつなぎ次世代にバトンを渡す。

(vi) 箕面滝道復活祭での演奏

平成 29 年 10 月の台風被害で滝道の一部区間が通行止めとなっていたが、箕面市・大阪府を始め多くの機関・人々による多大な尽力により平成 30 年 11 月 1 日に復旧し全区間の散策が可能に。これを記念して「箕面滝道復活祭」開催。ライトアップされた大滝前で記念演奏。

11.3 17 時～19 時 大滝前が人で埋まる 感謝・感動の演奏

滝ノ道ゆずるプロデュース、ゆずるの分身を探すウォークラリー「大・大・大かくれんぼ大会」や、「みのおキャンドルロード 2018」、「箕面大滝ライトアップ」、「箕面駅周辺ゆずり」などのイベント。

各団体と連携することで、音楽家が復興を支援することが出来る。

大勢の市民・観光客の皆さんに足を運んでいただき、周辺の商店・飲食にも賑わいが波及。

(vii) ロビーコンサート・ホワイエコンサート

メイプルホールロビーやグリーンホールホワイエでのコンサート

- ・新春、スプリング、オータム、クリスマスなど 季節ごとに1団体～数団体が演奏
- ・ドリンクやちょっとしたお菓子などを付けて、リラックスした雰囲気楽しんでいただくことも
- ・無料～300円、500円等の範囲で 時々に応じて

演奏者と近い距離、普段着で来られる気軽さ。たまたま立ち寄って聴かれる方、ベビーカーに乗せたまま聴かれる方、障害を持つ方も多く来られる。 多様な市民の方が聴衆となる。

ホールでのコンサートはややハードルが高いと感じられている皆さまに  
より気軽に立ち寄り観賞できるコンサート、ライブ  
→裾野の広がり → 文化・芸術に興味を持っていただけるきっかけづくり

Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ での現状、課題、可能性を改めて考察することで、自らの音楽活動・音楽の持つ可能性を多角的な視点で振り返ることが出来た。またこれまでの会議での皆様の発表を重ねて考えることで音楽芸術のみならず文化芸術国際交流の持つ課題が共有出来、今後お互いが各々の特性や可能性を生かしながら自由度高く繋がっていくことで、箕面船場において新たな創出・活動が生まれていく希望・エネルギーをいただけた。

## スピノフ

### 箕面市立文化芸能劇場誕生秘話

2014年 グリーンホールがまもなく閉館→新ホール建設。どんなホールが建つのか？

市民にとって利用しやすいもの プレイヤー側も観客も満足のものであることが重要

市民の方の声→小ホールが欲しい

「箕面市立ホール」→市民にとって使いやすいものプレイヤー側も観客も満足のものであることが重要  
と感じ自ら学び考察する

- ・規模観・ホール自体がどのようなしつらえであるのか、その中身がだいへん重要
- ・設計段階、建築段階において、実際に箕面で活動している芸術家・プレイヤーを始めとする利用者の意見を十分に吸い上げて活かしていくこと。それでこそ演じる側も観客側も末永く多世代にわたり満足のできるホールが出来る。それは箕面市にとっての有形・無形の財産になる。

大きな視点として次の2点が特に必要と結論に至る

1. 市民主催・参加型ホールとして200～300人規模のホール設置
2. ホール規模やその他付帯設備については常時施設を利用している利用者の意見を参考に設計、決定されること

詳細を挙げると

\*プレイヤー側

バックヤード

荷物トラック駐車～ホールへスムーズに搬入、プレイヤーの動線（楽屋から舞台へ）、楽屋の通路幅の確保、シャワー室、洗濯機、加湿器、ティンパニーやピアノなど楽器設備、使用しやすい譜面台・椅子…等々

舞台・ホール空間の仕様

生音が美しく響く空間、マイク使用時の音響、演劇やダンス時の照明・幕・大道具にも対応できる舞台、空調管理、大小ホール移動可能なピアノ庫…等々

\*観客側

ゆったりした疲れにくい客席、前列と重ならない客席配置、乳幼児さんと一緒に見られる防音室、エレベーターの設置、車椅子席の充実、お手洗いの動線・個室が空いているかどうかのサインプレート  
快適でありながら劇場ならではの特別感のある空間創出、箕面らしさの盛り込み…等々

設計・建築側の提示のまま着工していくのではなく、まず実際に関わる市・市民の主体的で具体的な意見を集約し盛り込んでいき、それを設計・建築に反映していく。

2017より4年間審議委員を拝命 実のある会議となり、上記の大小様々な仕様・設備が実現。

市民と市・民間企業が知恵を出し合い協力して新文化ホールを作り上げた。

熱い思いは実現する！ 足掛け6年の地道な取り組みがついに形となって実る！













「良心の囚人」だった世界的チェリスト  
ヴラダン・コチ&アンサンブル・サビーナ

12/22 (木) 2回公演!  
緊急来日! 特別企画

2016 東灘区民センター5F うららホール

神戸市東灘区住吉東町5丁目1-16(JR神戸線 住吉駅から屋根付き歩道で約200m)※地図は裏面



■昼の部  
開演 13:30 (開場 13:00)  
■夜の部  
開演 19:30 (開場 19:00)

【プログラム(予定)】 【🎻 印は、ヴラダン・コチさんのチェロ独奏です】

- ◆コレリ: 合奏協奏曲第8番「クリスマス協奏曲」
- ◆山田耕祐: 「この道」「からたちの花」
- ◆ポツケリーニ: チェロ協奏曲第9番 変ロ長調(グリユツマツハー編)
- ◆ドヴォルザーク: 森の静けさ Op.68-5
- ◆ポツパー: ハンガリアン・ラプソディ Op.68 🎻などを予定しています。

【チケット】 前売り: 各公演 2500円 (当日 500円増) -全指定席- ※学校前のお子さまはご入場できません。

- 🎫 取り扱い ■イタリア生活文化交流協会 ☎06-6844-8787 (詳細は下記)
- 東灘区民センター ☎078-822-8333

【主催・問合せ】 イタリア生活文化交流協会「アンサンブル・サビーナ」事務局  
TEL: 06-6844-8787 FAX: 06-6844-8788 〒560-0032 大阪府豊中市蛍池東町 2-1-3  
Email: hotaru@sabina-net.jp H.P.: http://www.sabina-net.jp/



「良心の囚人」だった世界的チェリスト  
ヴラダン・コチが魂の音楽を奏でます。



ヴラダン・コチさんは、独逸エッセイバキアムのブラハス室内管弦楽団の首席チェリストだった。1988年に、「人に誇りを向けたくない」と兵役を拒否して退避され、アムステルダム・インターナショナルが「良心の囚人」として去る。その後の音楽生活で輝かれました。そして、音楽活動に復帰し、ヴィルトロー・ディ・ブラハス首席チェリストやブラハス音楽祭総指揮を経て、現在はオランダのオランダ国立芸術科学大学教授となり、音楽に情熱をそそぐと共に、ソリストとして世界中で活躍されています。今回の「友情のサビーナ・オーケストラ」コンサートは、コチさんと、イタリア無類の指揮者ダニエレ・ペラルディネッリさんと共演します。

ヴラダン・コチ、ダニエレ・ペラルディネッリ &  
友情のサビーナ・オーケストラ  
4/24 (日) コンサート vol.8

兵庫県立芸術文化センター  
KURENOMI THEATRE

2016 13:30開演 (12:45開場)

- 【演奏曲目】
- ハイTON チェロ協奏曲第2番 (チェロ独奏: ヴラダン・コチ)
  - オベラ協奏 (演奏: サビーナ・ウィンドアンサンブル)
  - モーザルト 交響曲第38番「プラハ」 他、を予定しています。

【チケット】 A席 4,000円 B席 3,000円 C席 2,000円 (各自 500円増)

-全指定席- ※学校前のお子さまはご入場できません。

- 🎫 取り扱い ■イタリア生活文化交流協会 ☎06-6844-8787 (詳細は下記)
- 兵庫県立芸術文化センターチケットオフィス ☎0798-68-0255 (10:00-17:00 月曜休み ※祝日の場合はお問い合わせ)



ダニエレ・ペラルディネッリ  
イタリア・マッテオ・ペレグリーニ指揮者

【主催・問合せ】 イタリア生活文化交流協会「友情のサビーナ・オーケストラ」事務局  
TEL: 06-6844-8787 FAX: 06-6844-8788 〒560-0032 兵庫県豊中市蛍池東町 2-1-3  
Email: hotaru@sabina-net.jp H.P.: http://www.sabina-net.jp/















## コメント

- 「箕面まつり」を例にとると、そのように実績のあるイベントを「思い切ってリニューアル」することが新しい箕面のヒントかと思います。
- 音楽のサポーター、現代は市民、という説明をいただきました。正にその通りで、アートの発展のためには、市民がアートを楽しむようになると、すそ野が広がり、アートも豊かになります。市民もアーティストもともにハッピーになるのです。すそ野を広げる仕組み（それは学校教育に尽きると思いますが）を考えることができるとよい。
- まちづくりにおいて、音楽等のソフトをどのように活用していけるのか。すでにこれまでもいろんなイベントが行なわれているようなので、市民にはすでに「期待」があると思う。
- 近隣の文化施設をキッカケとして、文化芸能に関わりを持つためには、当団体として何が出来るだろう。当団体自体は組合組織であり、組合員の為に資することを行う組織なので、この『文化芸能国際交流』が各組合員にとって何らかの目的やメリットに繋がる建付けが必要に思う。
- 自治会活動を構成する諸行事の中に「音楽会」の定期開催を織り込み、会員の満足感を高めると共に音楽の有する力が更に風通しの良い地域社会を創り出すことが出来るのでは…と考え始めたところです。吉岡委員のお力添えをいただければ幸いです。
- 親子をはじめ、いろいろな世代の人に音楽の魅力を伝えておられて素晴らしいです。どうしても、コンサートなどはお金も時間も余裕がないと制限される中で、日々の暮らしにしんどさを抱えている人にどう届けられるのか。オーケストラに限らなくとも、エル・システマのような仕組みがいつの日か実現すればよいなと思います。
- 「音楽は人類共通言語」：国境を越え、性別・年齢・社会的立場を超えているとの考え方に感銘を受けました。
- 吉岡委員のご提案されたファッションショーに加え、様々な国の伝統音楽を演奏し披露するコンサートの開催も考えられるのではないかと思います。
- 箕面市の劇場の建設に際し、音楽家の生の意見がまとめられ、実際に採用され、劇場が出来上がったという経緯につき、素晴らしいと思いました。適切な専門家等の意見を適宜参考にするという一工夫で、市民の生活に大きな違いが生まれるエピソードだと思いました。
- 市民の生の声を集約し選別し実践することは、時間も労力もかかり簡単なことではないと思いますが、（本ワークショップも含めて）箕面市として、このような取り組みを是非積極的に続けていただきたいと思いました。
- 箕面には音楽活動を活発にされている方やグループが多いと思う。箕面を文化芸能国際交流のまちにするには音楽やアートを通じて多様な人々が交流する場や機会が必要。広く芸術の世界に市民が親しむためには、音楽とともにアートの活動にも力を入れる必要がある。「箕面芸術祭」や「箕面ビエンナーレ」などを将来実現できればと思う。

# 目次

1. 岩城 あすか委員 『(公財)箕面市国際交流協会の可能性』	P12
2. 米田 信子委員 『大阪大学外国語学部が目指すもの』	P59
3. 安田 優美香委員 『語劇祭で知る世界』	P63
4. 阿部 一郎委員 『創造都市・MINOHを目指して』	P80
5. 須貝 昭子委員 『まちづくりは人づくり～自分のまちを「住みつづけたいまち」へ～』	P94
6. 小林 利彰委員 『箕面船場はきっとおもしろいまちになる』	P123
7. 村井 淳委員 『船場西地区連合自治会のご紹介』	P159
8. 山口 裕委員 『大阪船場繊維卸商団地協同組合について』	P191
9. プリティ 梨佐クリスティーン委員 『インクルーシブな社会を目指す』	P205
10. 吉岡 邑玲委員 『音楽の力と箕面船場における活性化の可能性』	P220
11. 森 七恵委員 『公益財団法人箕面市メイプル文化財団についてー地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくりー』	P253

箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくりワークショップ

# 公益財団法人 箕面市メイプル文化財団について

-地域に密着した事業展開と地域に親しまれる施設づくり-

(公財)箕面市メイプル文化財団  
芸術創造セクション アソシエイトマネージャー  
森 七恵

# 概要

- 名 称／公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
- 所 在 地／箕面市箕面5丁目11番23号
- 設 立 日／昭和63年6月1日
- 目 的／主体的な文化活動の展開により、市民文化の高揚を図り、  
もって市民の文化活動の推進に寄与することを目的とする。
- 事業内容／
  - (1) 市民文化の向上、教養の増進を図る催しの企画及び実施
  - (2) 市民文化の向上、教養の増進を図る催しの企画及び実施の受託
  - (3) 文化情報の収集及び提供
  - (4) 前3号の事業に供する、箕面市内施設の管理運営の受託
  - (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

# 沿革

- 昭和63年6月 財団法人箕面市文化振興事業団設立
- 平成17年4月 箕面市立市民文化ホール(箕面市立メイプルホール・箕面市立市民会館)の指定管理者に選定(第1期目、現在第4期目)
- 平成25年4月 公益財団法人への移行にともない、名称を公益財団法人箕面市メイプル文化財団に変更
- 平成28年4月 箕面市立中央生涯学習センター窓口業務および生涯学習講座受託開始
- 平成30年1月 箕面市立西南生涯学習センター窓口業務受託開始
- 令和2年4月 箕面市立生涯学習センター(中央・東・西南生涯学習センター)の指定管理者に選定(第1期目)
- 令和3年5月 箕面市立船場生涯学習センター窓口業務および生涯学習講座受託開始

# 組織

事務局

企画総務セクション

地域に密着した事業展開

芸術創造セクション

- ・市民参加型演劇 「みのおキッズシアターwith未成映薫」、「自分をつくる学校」...
- ・身近なホールのクラシック ギル・シャハム、エマニュエル・パユ、レ・ヴァン・フランセ...
- ・受託事業 「箕面シニア塾」、指定管理者事業 「生涯学習講座」
- ・子ども達へのアプローチ 箕面市青少年吹奏楽団、みのおこども文化体験フェア

地域に親しまれる施設づくり

箕面市立メイプルホール

箕面市立市民会館

箕面市立中央生涯学習センター

箕面市立東生涯学習センター

箕面市立西南生涯学習センター

箕面まつり事務局

受託事業 船場生涯学習センター

## 市民参加型演劇「みのおキッズシアターwith未成映薫」

- 舞台づくりをとおして子ども達の想像力をはくむ



## 市民参加型演劇「自分をつくる学校」

- 演技をきっかけに、まだ見ぬ自分と出会う



## 身近なホールのクラシック 「エマニュエル・パユ フルート・リサイタル」

- ・ 国際的アーティストを身近なホールで



## 受託事業 「箕面シニア塾」

- 健康長寿 高齢者の学びのきっかけづくりと外出促進



## 指定管理者事業 「生涯学習講座」

- 日常生活に彩りを 社会課題へのアプローチ



## 子ども達へのアプローチ



### 箕面市青少年吹奏楽団

- ・ 青少年健全育成、メイプルホールのフランチャイズ楽団



### みのおこども文化体験フェア

- ・ 夏休みの講座イベント、文化芸術の継承

# 地域に親しまれる施設づくり

## 市民文化ホールと生涯学習センターの包括管理

- 箕面市内のすみずみまで生涯学習・文化サービスを提供

メイプルホール  
阪急箕面線「箕面駅」下車→徒歩7分

中央生涯学習センター  
阪急箕面線「箕面駅」下車→徒歩7分

グリーンホール  
阪急箕面線「箕面駅」下車→徒歩7分

西南生涯学習センター  
阪急箕面線「保井駅」下車→徒歩10分

東生涯学習センター  
阪急バス「東生田地」下車→徒歩5分

中央・東・西南生涯学習センターでは、美術や音楽、舞踊など、さまざまなグループが活動を行っています。多様な生涯学習活動の場として、皆様のご利用をお待ちしています。

船場生涯学習センター

# 利用者との信頼関係の構築

地域の皆さまとの接点となる窓口での接客を大切にしています。どんな活動で利用したいのが正確に聞き取り、貸出備品等ももれなくお伝えし、ご要望に合った部屋をご提案しています。安心かつ充実した活動ができるようサポートしています。

また、各生涯学習センターには利用者・利用グループ協議会があり、ここに加盟しているグループはセンターを最もご利用いただいている皆さんです。総会・役員会の補助からセンターまつりをはじめとするイベントの実施まで支援をおこなっています。こうした日々の業務をとおして皆さまお一人お一人と丁寧に向き合いお互いに顔の見える関係を築くことができます。

(参考)

- ・ 中央生涯学習センター利用者協議会 55グループ(1,264人)
- ・ 東生涯学習センター利用グループ協議会 35グループ(646人)
- ・ 西南生涯学習センターグループ協議会 22グループ(430人)

# 大阪大学と連携した船場での新たな取り組み

## 箕面市立船場生涯学習センター

- 所在地／箕面市船場東3丁目10番1号
- 開館／令和3年5月
- 指定管理者／国立大学法人大阪大学  
(担当：大阪大学共創推進部 社会連携課)
- 当財団への委託業務内容／
  - (1)窓口業務
  - (2)生涯学習講座の運営

# 大阪大学が提供する特色あふれる生涯学習講座

## ●令和3年度秋の講座(船場) ラインナップ

### 「神々(しぜん)と人々の綱引き」

人間はこれまで、疫病や災害をはじめ、幾多の困難に直面してきました。それを理解し乗り越えようとする中、宗教が生まれ、科学を誘発させてきました。  
古来より日本において、神々は豊穡をもたらす一方で、災厄を及ぼす存在でした。自然の恵み、脅威は神々によるものであったのです。  
人類はその自然現象と向き合い、一進一退しながら、まるで綱引きのように、真理の探究を続け、「英知」を生み出し、困難を克服し、豊かな社会を築いてきました。  
大阪大学では、今日も、真理の探究という不易流行の活動を続けています。  
英知が結集する大阪大学が提供する講座で、知識と教養を深めませんか。

### 講座番号 ① 「史料から読み解く緒方洪庵の牛痘種痘事業」



嘉永2年(1849)7月、ジャワのバタヴィアから長崎に牛痘ワクチンがもたらされ、その地で牛痘種痘が成功します。これ以降、日本の各地で牛痘種痘が行われるようになります。大阪では、嘉永2年11月に緒方洪庵らの有志が除痘館を創設し、種痘事業に乗り出します。本講座では、当時の史料を読みながら、洪庵たちの種痘事業の内容と特徴を明らかにします。

- 日 時 11月17日(水)午前10時30分～正午
- 講 師 村田 隆人(大阪大学名誉教授/日本近世史)
- 申込締切 11月9日(火)

### 講座番号 ② 「日本の酒と飢饉・戦争」



日本酒の原料となる米は、平時は主要な食糧であり、戦時でも不可欠な兵糧でした。したがって酒の生産と、それを前提とする消費は、飢饉・戦争に大きく規定される関係にありました。本講座では、酒と飢饉・戦争をめぐる健康・富国・江戸各幕府や近代国家の政策から、名酒の特長を照らしめます。またそれらが与えた酒造技術への影響についても言及したいと思います。

- 日 時 11月26日(金)午後2時30分～午後4時
- 講 師 松永利浩(大阪大学運動センター准教授)
- 申込締切 11月16日(火)

### 講座番号 ③ 「日本中世における神仏と人」



日本中世では、人は自然に大きく依存していました。人の力は弱く、何とかが自然をコントロールしようとして神仏への祈りが盛んに行われました。でも、中世では神仏の力も万能ではない、と書かれています。人は強いが、神仏も弱かったのが中世という時代です。その中で、人と神仏がどのように協力しながら問題解決をはかっていたか、農業・養蚕・医学など多様な領域から、その実態にせまりたいと思います。

- 日 時 11月30日(火)午後2時30分～午後4時
- 講 師 平雅行(大阪大学名誉教授/日本中世史)
- 申込締切 11月19日(金)

### 講座番号 ④ 「孝明天皇の天然痘罹患と親王(親王)一彦(親王)の種痘接種の歴史的意義」



天然痘は根絶された感染症です。天然痘を診る医師の不在と種痘の禁止で、再発すれば即脚麻痺といわれます。天然痘は日本史にも大きく影響しました。日本史上、天然痘はどのように広がりを、いかに克服されたのか。その視点は、いまま感染症対策の困難を体験する私たちに、忘れられた感染症の脅威と、感染症対策の重要性を再認識させてくれるでしょう。本講座では、天然痘の幕末維新史への影響と当時の対応策を宮中の視点から説明します。

- 日 時 12月4日(土)午前10時30分～正午
- 講 師 野村 玄(大阪大学文学部研究科准教授)
- 申込締切 11月24日(水)

### 講座番号 ⑤ 「適塾から眺く感染症研究：大阪(大坂)と世界」



幕末大阪船場で緒方洪庵が主宰する適塾で学んだ塾生たちは、オランダからもたらされた最先端の科学、特に医学に目を見開かれました。当時適塾でフランスによって起こった天然痘が社会を揺るがす状況でした。折しも英露で終結された世界初のワクチン(種痘)が我が国にもたらされ、洪庵は大規模種痘事業を展開。また、まさに、新型コロナウイルス感染症が社会を揺るがす。疫学史的ワクチンの大規模接種が行われている現在の状況と同様です。講座では幕末と現在を対比考察します。

- 日 時 12月10日(金)午後2時30分～午後4時
- 講 師 木下タロウ(大阪大学名誉教授/免疫学)
- 申込締切 11月30日(火)

### 講座番号 ⑥ 「早稲と祈雨祈禱能ー中世の法隆寺と春日若宮社を中心にー」



人工知能といひ、宇宙飛行といひ、近年の科学技術の発展はめざましいものがありますが、しかし、こと天候や地震など地球環境の自然の豪傑になると、最新の科学技術も対応するべきでないようです。このような自然の力に任せて、人はどのように対応して来たのか。この問題には、それを認識した人々の生活と生命を脅かす早稲(旧暦)に對して行われた中世室町時代の(祈雨祈禱能)をめぐって紹介してみたいと思います。また、それを通して、およそ700年という長い歴史がある能楽(能と狂言)がたどってきた歴史の一端を紹介し、あわせて現在も世界中に類のない舞台芸術として、内外から注目されている能楽、とりわけ能の魅力についてもお話をできればと思います。

- 日 時 12月15日(水)午前10時30分～正午
- 講 師 天野文雄(大阪大学名誉教授/能楽研究)
- 申込締切 12月7日(火)

### 講座番号 ⑦ 「SF バニック映画にみる科学者と政治家の綱引きー『妖星ゴラス』から『ゴジラ』まで」



「こうなってくるっていうと、政治家は科学者に席をゆずるしかないでしょうな」と、総理がつぶやく映画があります。悪魔が地球に衝突することがわかり、科学者の報告に政治家が言葉を送る一場面で、『妖星ゴラス』(1962)に登場します。多くのSF バニック映画では、最初、政治家は科学者の訴えに耳を貸しません。事態急変を受け、一変逆して危機を回避します。どんな背景からこうした作話が生まれたのか、その歴史をたどります。

- 日 時 12月22日(水)午後2時30分～午後4時
- 講 師 橋本順光(大阪大学文学部研究科教授)
- 申込締切 12月14日(火)

# ● 令和3年度冬の講座(船場) ラインナップ

## 船場生涯学習センターで開催する講座

### 「はかる ～過去・現在 そして未来へ～」

計る、測る、量る… 様々な「はかる」があります。真理を探究するうえで、さまざまなものを「はかる」ことが行われています。大阪大学では、過去や現在、ミクロからマクロ、そして見えないものなど様々なものを「はかり」、真理を探究して未来社会へつながる研究活動を行っています。匂い、人工知能、太古の大阪、人のこころ、情報、宇宙からお肌まで！船場生涯学習センター冬の講座では「はかる」をテーマに、大阪大学のさまざまな研究をご紹介します。

- 定員 各講座30名
- 場 所 船場生涯学習センター 6階 多目的室3AB
- 受講料 各講座1,600円
- 持ち物 筆記用具

#### 全講座受講でお得になります

- ★全8回通しでの受講料 7,700円 ※申込締切：1月26日(水)
- ・申し込みの際に「全講座受講」とお申し出ください。
- ・全講座受講は、全回出席を前提とします。また休講の方の出席はできません。
- ・初回講座受付時に一括支払い、一旦支払われた受講料は返金できませんのでご了承ください。

#### 講座① においを感じる仕組みをはかる



興味な感覚だと思われている嗅覚。そこはかたなく嗅う匂い、香りに包まれたり、悪臭に悩まされたり。そんな匂いの中、嗅細胞の中で分子はめまぐるしく動いています。私達のにおいを感じる仕組みを実際の測定データを見ながらご紹介しましょう。

- 日 時 2月16日(水) 午後2時30分～午後4時
- 講 師 竹内裕子(大阪大学生命機能研究科准教授)
- 申込締切 2月2日(水)

#### 講座② データから推し量る機械-AIの可能性と限界-



目まぐるしく進歩する人工知能(AI)が注目されていますが、そもそも「コンピューターが学習した」とは一体どういうことでしょうか？この素朴な疑問に一つの答えを示し、AIの可能性と限界について考えましょう。

- 日 時 2月18日(金) 午前10時30分～正午
- 講 師 マシュー・ホーランド(大阪大学産業科学研究所助教)
- 申込締切 2月4日(金)

#### 講座③ マチカネワニで大吉の大阪をはかる



大阪大学豊中キャンパスで発見された「マチカネワニ」は、45万年前の千里丘陵を闊歩していたようです。マチカネワニはどこから日本にやって来て、海辺の王様になったのでしょうか？大吉の大阪を探ってみましょう。

- 日 時 2月22日(火) 午後2時30分～午後4時
- 講 師 江口太郎(大阪大学名誉教授/博導科学・物理学)
- 申込締切 2月8日(火)

#### 講座④ 心は測れるか？心理学的測定法入門



外から見えない人間の心を科学的に測定することはできるのでしょうか？心理学はこの疑問に取り組み様々な測定方法を開発してきました。この講座では見た目の印象、心の奥底の運想、性格を測定する方法を紹介します。

- 日 時 2月25日(金) 午後2時30分～午後4時
- 講 師 森川和則(大阪大学人間科学研究科教授)
- 申込締切 2月10日(木)

#### 講座⑤ 身の回りの自然の色と水分をはかる～岩盤・コンクリートなどの劣化から野菜果物の熟成、紅葉、お肌まで～



我々の身の回りの自然環境では様々なものの色や状態が変化します。そこで携帯型可視・近赤外分光計を開発し、岩盤やコンクリートの劣化、野菜果物の熟成、紅葉、そしてお肌の水分などはかってみました。

- 日 時 3月9日(木) 午前10時30分～正午
- 講 師 中嶋悟(大阪大学名誉教授/地球環境科学)
- 申込締切 2月17日(木)

#### 講座⑥ 宇宙を知る Vol.1 宇宙の大きさの測り方



地球から月までは時速40kmの車でおよそ1ヶ月かかります(正確には30日くらい)。では、地球の直径や太陽の質量などをどうやって測定するのでしょうか？また、今の技術では決して直接行くことの出発ない星までの距離をどうやって測るのでしょうか？この講座では、宇宙の色々なサイズの測り方を紹介します。

- 日 時 3月9日(水) 午前10時30分～正午
- 講 師 松本浩典(大阪大学理学研究科教授)
- 申込締切 2月22日(火)

#### 講座⑦ 『数える、はかる』を支える数学とその発展—果物の個数から情報量まで—



人類は早くから果実を数え土地の広さや水の量などを測ってきました。しかし、確率や情報量を測れるようになったのはごく最近です。本講座ではこの積み重ね情報量を測る方法などを難しげな数式を使わずに紹介します。

- 日 時 3月17日(木) 午後2時30分～午後4時
- 講 師 簡旗大介(大阪大学サイバーメディアセンター教授)
- 申込締切 3月3日(木)

#### 講座⑧ 宇宙を知る Vol.2 X線で測る宇宙のなぞ

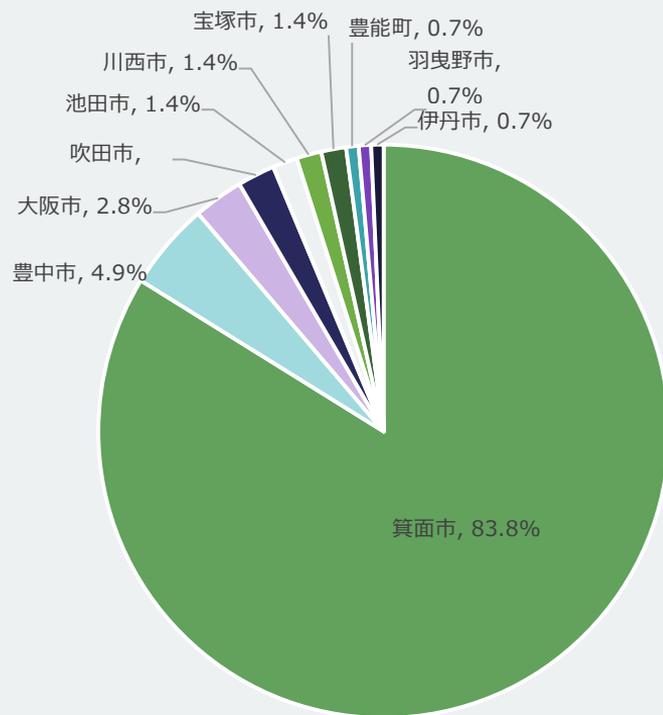


広い宇宙を理解するためには、地球環境では考えられないような状態を調べる必要があります。その有力な手法がX線など目には見えない電磁波での測定です。講座では観測結果をもとにどんなことが判ったかを紹介します。

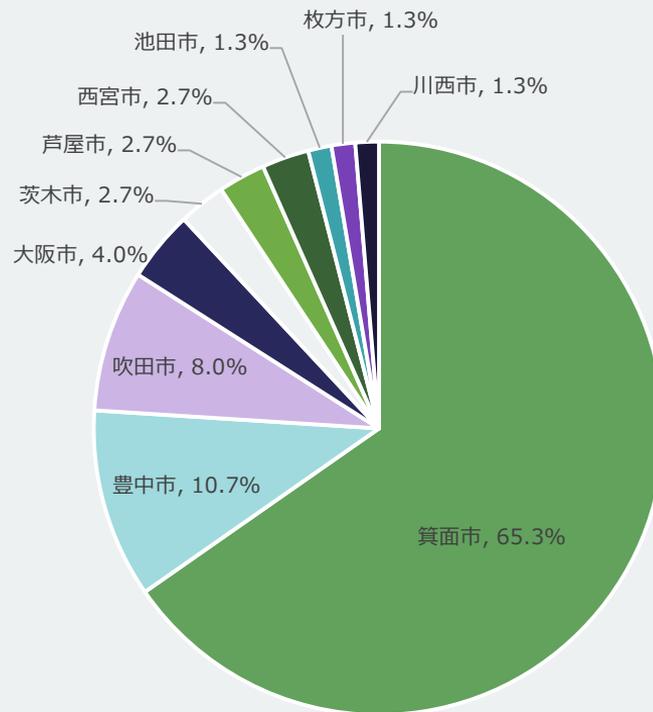
- 日 時 3月29日(火) 午後2時30分～午後4時
- 講 師 常深博(大阪大学名誉教授/X線天文学)
- 申込締切 3月15日(火)

# 船場から発信していくために

## ●令和3年度秋の講座 既存学セン6講座と船場学セン7講座の申込者比較

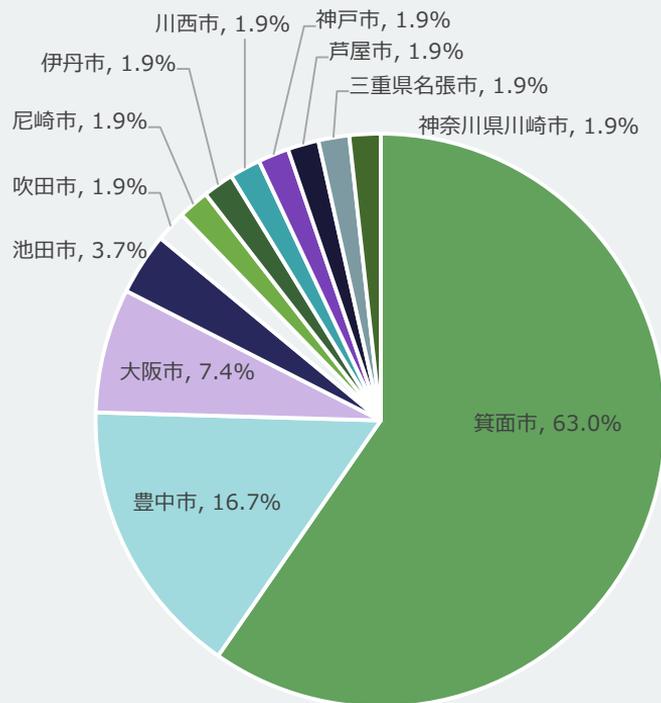


中央・東等開催6講座 申込者内訳【居住地】

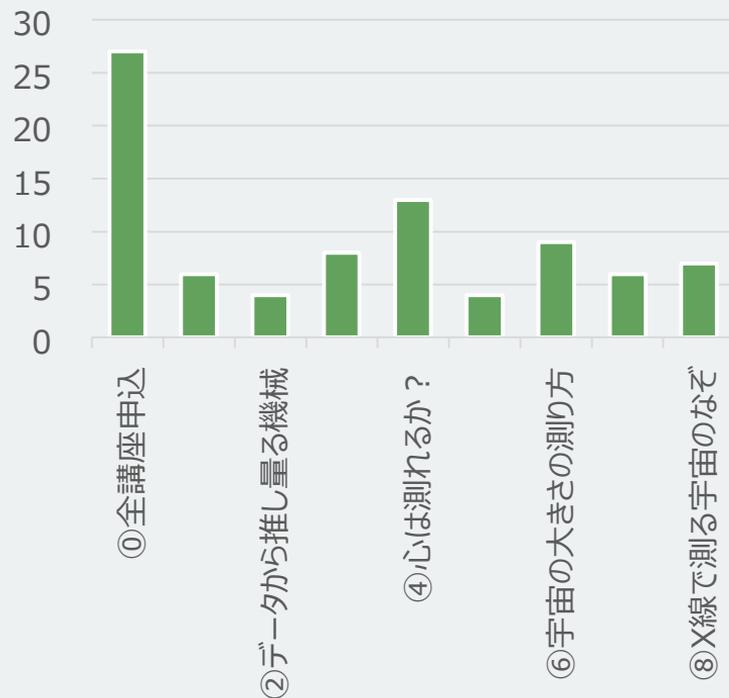


船場開催7講座 申込者内訳【居住地】

## ●令和3年度冬の講座(船場)8講座 申し込み状況(2020.1.10現在)



申込者内訳【居住地】



申込者内訳【講座別】

# 大阪大学とともに

## 船場生涯学習センターの活性化

- お客様とセンターとの重要な接点となる窓口業務に誠意をもって取り組み、船場地域の皆さまの生涯学習活動に貢献したい。
- 大阪大学ならではの生涯学習講座を、船場から発信していきたい。
- 当財団のネットワークを生かし、船場生涯学習センターを広く市民に知らしめていきたい。

(具体例)

令和4年度箕面シニア塾を船場生涯学習センターでも開催予定

## コメント

- 役割として「調整役・コーディネーター・お世話係」から「提案者」へ転換は必要か？
- 大阪大学との繋がりに関して、①外国語学部に絞り込むべきか？ ②大阪大学内の芸術的な活動をしている団体との繋がりを検討。
- 生涯学習講座などを企画・運営する場合は、当該施設の管理者か如何かで、影響力の違いが出るとの事でしたが、逆に船場エリアの阪大企画の講座が魅力的であればそれを他の箕面市メイプル文化財団が企画運営している施設での講座に、取り入れる様な工夫をして行けば良いのではないかと。新たな大阪大学の良いところ、活用できるところは活用して、箕面市全体をよく出来れば良いのではないかと思います。
- 受託事業として「箕面シニア塾」を運営されておられるとのことですが、現在のシニア塾は受講期間が短く、テーマにしてもシニア層を満足させるものが少ないように思われます。森委員のご説明によれば、シニア塾の目的は健康長寿であり、高齢者の学びのきっかけづくりと外出促進、とのことですが、次のステップとして知識技術的なものをしっかり身につけることができるような「シニア大学校」的な教育機関の開設をご検討いただけないか、と思います。
- 財団として地域に愛される施設運営をめざして多くの市民に文化芸能を広げる展開を図るために、組織として市民参加のプロセスをいかに創って行くのか、そのプロセスに、どう人材を巻き込んでいくのかが、今後の課題であると思います。
- 拠点の窓口には必ず市民参画の接点を促す人材が必要だと思えます。新たに船場生涯学習センターの窓口業務を担うというチャンスを活かしたネットワークづくりを進めてほしいと思います。
- 箕面高校のダンス部に代表されるように、大学だけでなく高校の文化活動とも連携をとれる関係作りなど、このワークショップからのアイデアや助言を上手に取り入れながら次のステージに進んでいくことを期待しています。
- メイプル文化財団の活動には、「文化創造」の部分が欠落している。時代の変化にアンテナを張り、毎年のように事業のリストラクションをしていくことが大切だと思う。特に、持続可能な社会づくりや貧困といった社会課題の解決につながる”文化”の創造にチャレンジしてもらいたい。阪大と連携協働するならば、阪大の外国語学部の特化し、かつ阪大の芸術学部該当する存在になってほしい。
- 語劇祭当日、見に来て下さった方にアンケートをお配りしたのですが、その回答を見ていると劇以外にも言語の講座でしたり、専攻語地域の伝統衣装着付け体験や、文化紹介のワークショップなど面白いという意見を多くいただきました。語劇祭の中でももちろん、そういった取り組みができるよう実行委員会ももっと力をつけていきたいものですが船場生涯学習センターや他の施設でも箕面市メイプル文化財団さんと協力して、学生が自分たちの専攻分野を紹介するようなイベントを開けたら面白いなと思いました。

## コメント

- 森さんがこれまで取り組まれてきたことをどんどん事業の中に取り込んでいかれたらと思います。来年度、国際交流協会とメイプル文化財団、阪大の社会連携課と共催する講座において、核になるコンセプトを一緒に考えていきたいです。
- 船場まちづくり協議会では「この地に育つ子どもにとってのふるさと」の考えから、子育て分科会を先頭にして活動している。箕面市の生涯学習センターは「シニア塾」のプログラム中心であるが、「赤ちゃん学」から展開する全年代への学習を働きかける必要がある。
- 大阪大学日本語日本文化教育センターの国費留学生中心のPBL講義にNHKの働き掛けもあり参加したが、新たな国際交流の可能性を感じている。
- 運営する市内の拠点・財団メンバーが増え、それぞれにオペレーションが分かれていく中、財団全体としての総意・コミュニケーションが取りづらくなって来ていることもあるように思われます。
- 今も企画や創造セクションを持っておられるが、より高いレベルでの情報の共有とコミュニケーション、創造性の高いヘッド部門を作っていくことも考えらるとよいかもかもしれませんね。
- 船場地区での新たな取り組み期待しています。現在開催されている大阪大学の講座も、今後財団さん自らが企画したり、市民の皆さんの声を吸い上げて講座を作ったりと独自のカラーも出していかれるとおもしろいですね。
- 私自身も関わっている箕面市でのバンドフェスティバルやホワイエコンサート等で大阪大学のジャズバンドの皆さんなどにも出演していただいているので、今後大阪大学の音楽系クラブやサークルとの連携イベントなども考えていきたいです。
- 今後講座をZoom等を使ったりリモートでも視聴できるように是非お願いしたいです。